

トップページ

めざすべき未来

プロフィール

メッセージ

後援会

メール

こんにちは板東です

水を治めることが政治の原点

■ゲリラ豪雨の増加

近年、「降雨範囲が狭い」「降雨時間が短い」「時間当たりの降雨量が多い」という特徴を持った集中豪雨が増えてきています。

本年は東京や神戸市、岡崎市で人的被害を含む災害が発生をしました。平成12年9月にも、名古屋市周辺で時間雨量100mmを記録、50万人に避難勧告、死者9名、浸水家屋7万戸という雨による大災害がありました。

大阪府内での、時間当たり50mm以上の豪雨の発生回数を10年毎にみると、

昭和52～61年 14回

昭和63～平成8年 18回

平成9～18年 26回

そのうち、70mm以上の集中豪雨の回数が4割を占めるようになってきていることや、今年は各地で、観測史上最高の降雨を記録した地点が多かったことから、雨の降り方に変化が見られるように感じております。

■112mmの雨量を記録

8月6日に降った大雨は、本市観測史上最大の1時間当たり112mmを記録（総雨量は113mm）

そのうち、10分での最大雨量は32mmでした。

これまでの時間当たりの最大雨量が75mmであり、経験してきた多くの集中豪雨が時間当たり40～50mmであったことと比較すると、その違いが理解いただけるものと思います。

今回の集中豪雨により、本市で甚大な浸水被害が発生しましたが、被害状況は表の通りです。

8月6日の浸水被害状況（現地確認分）

		床上浸水	床下浸水
西北コミセン	香里北之町	41	290
	香里西之町	10	174
	香里新町	7	156
	香里南之町	2	71
	松屋町	0	1
	豊里町	0	1
	寿町	3	142
	田井町	0	75
	田井西町	0	10
東北コミセン	美井元町	18	87

	三井南町	2	39
	境橋町	6	0
	成田西町	32	30
	成田南町	7	0
	成田東町	1	0
	東香里園町	0	10
西コミセン	池田2丁目	0	2
	池田3丁目	0	2
東コミセン	八坂町	0	108
	本町	0	40
南コミセン	昭栄町	0	3
	小計	129	1241
	合計	1370	

また、特徴として次のことが挙げられます。

○局地的な豪雨

市内には、雨量計則ポイントが5ヶ所ありますが、その結果は以下の通りであり、狭い範囲での違いが確認されます。その結果として、これまでの本市での浸水地域と違った被害分布になっています。

香里局	112mm	(10分最大)	32mm
市役所局	58mm	(//)	16mm
点野局	50mm	(//)	24mm
堀溝局	11mm	(//)	4mm
梅が丘局	29mm	(//)	11mm

○予測の難しさ

民間の気象予報会社から気象情報の提供をいただき、警戒体制を整えています。今回の雨の特徴は、突然、雨雲が自然発生をするという点にあります。雲の動きをキャッチしながら予測を立てることができないことから、事前予測の難しさが言われています。

■行政の役割

治水対策は、川上・川下が関係することから、流域で考える必要があります。

例えば、本市域で雨水を河川に放流したとしても、川下で水の流れが滞っていれば、時間とともに水は溢れ出してしまい、浸水を引き起こします。特に、本市は内水域といって河川より住宅地が低くなっているため、地形の特性上、水が溜まりやすくなっています。

そこで、大阪府や流域関係11市によって「寝屋川流域総合治水対策」を策定し、整備に取り組んでいます。寝屋川は京橋口で他の河川と合流することから、川下の負担を軽減する施設整備を、関係自治体で行うものです。

対策としては「河川の改修」「導水路などの放流施設」「治水緑地、調節池、学校での雨水流出抑制施設」「地下河川」で、雨水が流れやすくすると同時に、降った雨が河川や下水道にすぐに流れ込まないように、溜めるための施設整備を行っています。

とはいうものの、本市での対策も必要であることから、「浸水対策・環境整備計画」を策定し、計画的に浸水対策を行ってきましたが、一応の整備は完了したという認識のもと、浸水対策の計画は今も策定されておりません。先に記した、「寝屋川流域総合治水対策」の未達成事項の完遂が先決

して策定されており、その雨量は時間当たり約62mmでした。40年に1度の大雨に対応できるように対策が進められていますが、基準を超える降雨への対策が必要になります。

私は、現在の寝屋川流域浸水対策の計画を早期に完成させることが、まずは、肝要だと考えております。

そして、それだけでは最近の豪雨に対応できない場合も考えられることから、並行して、雨水貯留施設の整備が必要だと考えております。それは、学校のグラウンドや、一定規模のある都市公園の利用です。

そして、市民の方々のご協力の下、地下への雨水の浸透を行えるような、コンクリート面の削減です。アスファルトやコンクリートに形状を変えることが文化的だとしてきた神話を捨てることが大切だと考えております。本市の場合、歴史上の土地の成り立ちを考えると、浸透する雨水の量は多くは期待できませんが、保水力などを考えた場合、少しずつの協力が大きな力になると考えております。

雨の降り方が変化してきていることから、新たな対策を上乗せしなければなりません。大きなインフラ整備だけでなく、雨のメカニズムを変える環境対策を含めた治水・浸水対策に取り組んでまいります。

寝屋川市 年表②



- 4世紀 太秦丘陵に古墳が造られる
朝鮮半島・伽耶との交流・・・法復寺遺跡（高宮付近）の土器より
- 5世紀 茨田堤の築堤
「日本書紀」に茨田堤の説話が掲載
茨田屯倉の設置
これらは、河内政権存立に必要な淀川水系の支配が目的
- 6世紀 木田付近に集落が営まれる（長保寺遺跡）
寝屋古墳が造られる
- 7世紀 石の宝殿が造られる
高宮に伽藍を備えた寺院が造られる
- 8世紀 「川内国」から「河内国」へ国名表記が変更になる
僧行基、直道、茨田堤樋等を造る
茨田郡の堤がたびたび決壊
772年 茨田堤6ヶ所決壊
784年 郡内の堤15ヶ所が決壊
785年 // 30ヶ所が決壊

